

◆ 誰がどのように・・・？

多面的機能支払の活動組織の地区役員と都市部の学校法人関係者との個人的なつながりがきっかけとなって保育園等への米の提供が始まり、農業体験などの交流に発展

農業者だけではなく女性や子供も含めた家族ぐるみを対象とした地域住民総出による維持管理を目指し、活動組織を設立。

きっかけ

高齢化・遊休農地の拡大が顕著になったことに地域の農業者が危機感

Step1 (H19～)

多面的機能支払

- 集落の全員を活動の対象とする多面的機能支払の活動組織を設立
- 地域住民総出で農地、農業用施設の保全、獣害対策を実施
- 新たな取り組みとして遊休農地を活用した都市住民交流を実施

Step2 (H20～)

都市農村交流を拡大

- 神戸市の学校法人(保育園・幼稚園4箇所)との、農業体験や園主催のバザーへの出店など、双方向の交流を拡大
- 交流をきっかけに、園の給食で使用される米は、全て安賀産(H21～)



都市部園児との交流(じゃがいも収穫)

◆ 誰がどのように・・・？

維持保全活動や学校法人との交流が活発化するなか、活動組織が基盤整備の必要性を認識し、平成19年から基盤整備計画の策定、営農組合の再開を検討。

Step3 (H23～)

営農組合の活動再開

- 神戸市の学校法人をきっかけに販路が拡大したことで、一時休止していた営農組合が活動を再開
- 営農組合の活動再開に合わせて農地の集積・集約化を図り、持続可能な地域営農を推進

安賀営農組合

- ・ 収穫した米は、都市農村交流をきっかけに保育園・幼稚園をはじめ、関係者や保護者に広がり、都市住民に全量直接販売
 - ・ 地域の中心経営体として復活し、地区の約9割の農地を集積
- ◇構成戸数：36戸 ◇経営面積：9.2ha

都市住民との交流が活発となってきたことで、その活動の拠点となる施設整備を望む声が上がるとともに、農業体験等の需要が高まった。

Step4 (H24～)

農業生産性の向上、交流促進のための基盤整備

- 農地環境整備事業により農地の大区画化、農道整備、排水路の管路化などにより、維持管理労力が軽減されるとともに、米の直播栽培を導入して、効率的な営農を展開
- 都市農村交流を一層促進するため、市民農園やアクセス道路、駐車場などを整備

今後の展望



区画整理後の安賀(やすが)地区



収穫した自然薯

自然薯の栽培状況



排水路の管路化(維持管理労力を軽減)



交流施設整備(東屋)

将来に向けて

- ☑ 効率的な営農を展開するとともに、宍粟市の特産品である自然薯の生産拡大や摺り下ろした「とろろパック」のネット販売など、6次産業化を目指す
- ☑ 都市農村交流の取組を一層促進し、地域の魅力を地域内外に発信することで、高齢化に負けない地域づくりを推進

- ほ場整備事業により、不整形な区画や狭小な農作業道等の営農条件を改善。
- 工事と並行して営農組合を設立し、基盤整備後の農地で集落営農を実施。
- 農地の一元的な維持管理に加えて、地域全体のイベント実施等による農村コミュニティの形成。

地区の特徴

平地地域

水稲

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

過疎化の深刻な農村地域

やまかげ 山陰地区 当初(H26)

【営農規模】 29.5ha
 【経営体数】 100戸
 【生産額】 7百万円

- 水稲栽培を中心とした個人経営が主体
- 小規模で不整形な区画のほ場が多く、営農や出荷のための農道も狭小
- 地区内の水路は用排水兼用であり水田の汎用化が困難など、高収益作物への転換等の発展が見込めない状況
- 農業従事者の高齢化や地域全体の過疎化の問題により、耕作放棄地の増加などが深刻化



区画は狭く、変形している

取組内容

生産基盤の整備

県営ほ場整備事業 (H20~26)
 ・ 30a規模の標準区画へと整備され、中には1ha以上の大区画もある
 ・ 大型機械が通行可能な農作業道や、暗渠排水が整備され、営農作業の省力化や水田の汎用化を実現



1haの大区画のほ場

営農組合の設立

「営農組合ゆめ野山」の設立 (H22)
 ・ 大型農機具の導入や乾燥施設等の整備

営農組合の法人化

農事組合法人「ゆめ野山」を設立 (H26)
 ・ 販売ルートを確認した新規作物の生産や加工商品の開発

基盤の維持・管理

多面的機能支払 (H27~)
 ・ 営農組織と自治会が連携した地域活動等

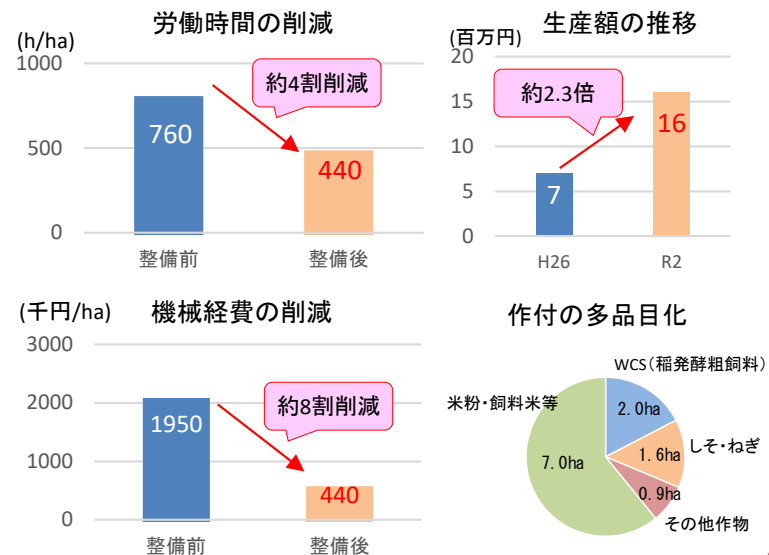
取組後

集落営農による農地の有効的な活用や営農組織の活動により地域全体が活性化

山陰地区 整備後 (R2)

【営農規模】 29.5ha (うち約28ha集積)
 【経営体数】 1 (ゆめ野山による集落営農)
 【生産額】 16百万円
 【作 目】 しそ・ねぎ 1.6ha 等

- ほ場整備により、農業生産の効率化が図られたことによる営農作業の省力化、主食用米一辺倒から脱却し、作付の多品目化に取り組み、生産額増加
- 生産から流通まで一元化し、安定した農業経営の確立
- 住民交流イベント等を通じた地域の活性化



◆ 誰がどのように・・・？

高齢化、後継者不足の深刻化に対し、地元農家では農地保全の意識が高まり、町が中心となって3年間の話し合いにより生産基盤整備による集落営農の取組を推進



ほ場整備により大型農機械の導入が可能になり、営農作業の省力化に繋がる。なかには1ha以上の大区画も整備。



高収益作物の取組み

営農作業の省力化により生み出された労働力を、水稻作付から高収益作物の拡大に転換。

きっかけ

不整形で小区画の水田、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加等

Step 1 (H17~20)

合意形成

- 山陰町を中心とした5集落による話し合いにより、ほ場整備計画を検討
- 集落営農による持続的な農業を目指す

Step 2 (H20~26)

ほ場整備の実施

- 今後の持続的な農業のため、ほ場整備により営農条件の改善を図る
- 区画整理や農作業道、暗渠排水の整備等により、営農環境を大幅に改善

Step 3 (H22~)

営農組合の設立

- 工事と並行して「営農組合ゆめ野山」を設立
- 「楽な農業を目指そう」をスローガンに5集落の全農家が参加

Step 4 (H23~25)

集落営農に向けた整備

- 大型農機械や野菜の定植機の導入
- 乾燥施設や育苗ハウスの整備等

乾燥用調製施設等



☆法人による生産から販売までの一元管理

ほ場整備により作業効率向上や汎用化が可能となり、高収益作物の導入が進むとともに、地元農家が中心となり、農事組合法人を設立し生産・流通・販売を一元管理することで農業経営を安定化

Step 5 (H26)

営農組合の法人化

- 5集落の農家と地域住民による農事組合法人「ゆめ野山」を設立
- ブランド米・酒米の栽培や、しそ等の契約栽培による安定した売上を確保し高収益作物の拡大に取り組む

農地中間管理機構を利用して、地区内の農地を「ゆめ野山」へ集積。



酒米「大吟醸ゆめ野山」

多面的機能支払交付金を活用

今後の展望

Step 6 (H27~)

農村コミュニティ形成

- 法人が中心となり、地域住民が一体的に農業用施設、道路等の保全活動
- 「ゆめ野山」の女性部が企画・運営する収穫祭等のイベント開催



将来に向けて

- ☑ より効率的な営農のため、ドローンによる水稻直播栽培やスマホ連携型水位センサー、GPS田植機などのスマート農業の実証の取組を行っている
- ☑ 山陰地区のWCS (稲発酵粗飼料) や粗穀と、肥育農家や酪農家で生じた堆肥を相互に交換活用することなどで、地域内における耕畜連携の循環型農業の実現を図る

- 水不足であった本地域において基盤整備を実施し、農業用水の安定供給、生産性の向上、生活環境改善を実現。
- 農地、農業用施設の維持、地域内の景観向上のため、様々な共同活動を展開。
- 世界遺産等の豊かな地域資源と美しい農村風景の維持・向上により、観光交流の活性化、集落人口を維持。

地区の特徴

山間地域

水稲

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

地域のすがた

- 天野地区は、高野山の麓に位置しており、高野山ゆかりの史跡が数多く存在し、ホタルの生息地であるなど、歴史や自然環境に恵まれている
- 「天野米」を中心に、高原野菜、花きを栽培



天野地区

取組前の課題

- 狭小で不整形な区画
- 水源が溪流であり安定的な用水の確保が困難
- 過疎化、高齢化による担い手不足
- 上水道が未整備



取組内容

用水の安定供給とほ場整備

中山間地域総合整備事業(H8～14)
ほ場整備61ha、農業用排水路、営農
飲雑用水施設などを整備



- ・ 安定的な用水確保により品質向上、区画整形により水稲や野菜の生産性の向上
- ・ 上水道の供給により生活環境の改善
- ・ 環境に配慮した水路整備により豊かな生態系や景観の維持

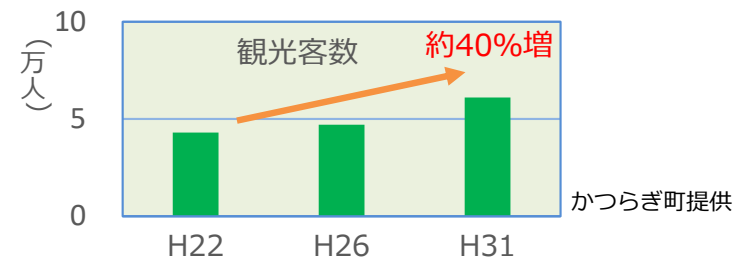
地域住民による共同活動

- 日本型直接支払の活用
- ・ 中山間地域等直接支払 (H17～)
 - ・ 多面的機能支払 (H27～)
- 過疎集落支援対策 (H26・H28)
- ・ 過疎地域等自立活性化推進対策
- 天野の里づくりの会 (H18～)
- ・ 自然や文化・歴史に恵まれた天野の里づくりに寄与
 - ・ 企業との交流と連携

取組後

観光交流の活性化

【観光客の増加】



- 「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産への登録をきっかけに、世界遺産及び美しい農村風景を有する魅力ある農村として「天野の里」をPR
- 直売所やカフェ、宿泊施設の開設
- 農家民泊や農業体験を通して、他地域小学校や大学と交流

【移住促進と地域活性化】

- 移住希望者の受け入れの推進と、地域に溶け込めるよう移住者が会の役員を努めたり共同活動を主体的に行うことにより、刀鍛冶、陶芸家、カフェ経営、靴職人等の多様な移住者が定住し現在では全約100世帯のうちおよそ3割が移住世帯となっている
- 農村景観の保全活動や耕作放棄地の発生防止対策に企業などと連携し取組み、地域の活性化を進めている



農村景観の美化活動



田植え体験を通じた企業との交流



企業と連携した耕作放棄地対策のそば栽培

◆ 誰がどのように・・・？

最初は基盤整備への賛成者が少なかったが、集落の区長、改良区役員が中心となり、負担金、工事中の収入減、整備後の営農などの課題を関係者と話し合い、地域の合意形成を促進。



世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」(H16)への登録を契機として、天野地域へ訪れる人が増加しました。



中山間地域直接支払、多面的機能支払等を活用

きっかけ

用水の確保が困難
水田区画が小さく作業効率が悪い
過疎化・高齢化

Step1 (H2~7)

合意形成

- 地元、町、県、農協等による「ほ場整備推進協議会」を発足(H2)。整備内容の検討、各地見学、アンケートなどを再三にわたり実施することにより合意形成を図り、平成7年に同意

Step2 (H8~14)

基盤の整備

- ほ場整備と農道整備で作業効率の良い基盤に整備
- ため池、用排水路整備により農業用水不足を解消、営農飲雑用水施設により、生活用水を確保

Step3 (H15~)

直売所開設

- 事業実施を契機に醸成された住民の思いから、世界遺産「丹生都比売神社」と道を隔てたところに直売所を開設し、ブランド米「天野米」や、トマト、キュウリなどの野菜や加工品等、地元天野の生産物を販売

Step4 (H17~)

共同活動の取組

- 世界遺産を有する田園地域を拠点に、ほ場整備された農地や農業用施設の維持管理が定着
- 世界遺産と農村の原風景をPRし地域の魅力向上を図っていく中で共同活動が拡大



天野地区

基盤整備を実施する中で、集落内での話し合いが深まり、自らの里づくりに対する意識が変化しました。



天野地域交流センター

近年、天野地域に移住を希望する人が増加し、空き家の活用などの取り組みを実施している。

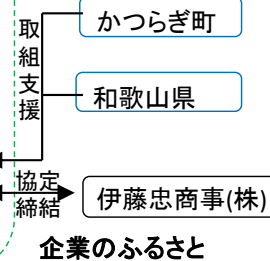
天野区多面的活動組織

- ・中山間地域直接支払
- ・多面的機能支払

天野区自治会

天野の里づくりの会

- ・農家民泊、田植え体験
- ・世界遺産の保全
- ・過疎対策



☆世界遺産登録を活用した地域活性化

整備後の農地の活用と世界遺産の登録により地域一体の活性化の取組が拡大し、地元有志が里づくりの会を発足し、町と協力し田植えなど農村景観保存活動を企業連携により推進

Step6 (H26~)

移住促進と地域活性化

- 移住希望者受け入れの推進
- 里山保全活動で発生した竹を土壌改良材として「竹パウダー」や、「天野の竹楽ちゃんぬか床」に加工し、有効活用

過疎集落等自立再生対策事業、過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業を活用

Step5 (H18~)

天野の里づくりの会

- 農家民泊や田植え体験、世界遺産周辺の保全等の取組を通じて、地域の美しい自然や文化、歴史を活かした里づくりを企業とも連携しつつ進める
- 伊藤忠商事(株)等と連携した農業体験、保全活動、そば栽培などを行っている

伊藤忠商事(株) (H21~)

「企業のふるさと」協定を締結し、農業・農村を守るため、伊藤忠商事の社員と一緒に田植えや稲刈り体験、農村景観の保全活動を実施している

将来に向けて

- ☑ 移住希望者の受け入れと、担い手の確保のための新規就農者育成
- ☑ 地域交流センターを活動拠点とした更なる「天野の里」の魅力向上

今後の展望

- 中山間地域総合整備事業により、生産・生活基盤の強化を実施し、地域住民の生活安定に貢献。
- 船岡地区全体エリアとする旧町一農業法人を設立、地域内外関係団体による都市住民との連携の取組。
- 集落営農法人の活動活性化、農泊、捕獲鳥獣のジビエ活用、交流促進など地域活性化の拠点となる施設を創設。

地区の特徴

中間地域

水稻・野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

人口減少・高齢化

- 地理的、社会的、地形的条件や人口・労働力の流出、高齢化や農業離れによる後継者不足。

未整備の生産基盤

- 昭和52年から県営ほ場整備を実施し平地のほ場整備は昭和63年ほぼ完了。
- 一方で中山間地域の基盤が未整備。



取組内容

中山間地域総合整備事業(H12~18)

- 農業基盤整備や鳥獣防止柵の設置により労力低減と品質向上を目指す。
- 集落道、集落排水、防火水槽整備により集落住民の生活環境改善。

集落営農法人化の取組(H21)

- 平成18年に2集落で法人設立。
- 多くの地域で組織化が困難な中、船岡地区全体をエリアとする旧町一農場法人(農)八頭船岡農場を設立。

ふなおか共生の里づくり活動協定

- 地域内外の関係団体・企業が連携し、関係人口を含む都市住民との連携深化

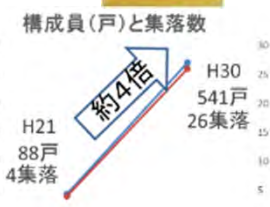


取組後

基盤整備による集落営農法人化の拡大

(農)八頭船岡農場

- 【営農規模】 水稻184ha 飼料作物53ha 白ネギ等野菜2.4ha 等
- 【構成員数】 541戸 (船岡地区の77%)
- 【集積面積】 255ha (船岡地区の75%)
- 【その他】
 - ・ 牛糞堆肥の施用を必須とする特別栽培米「神兎(カウサギ)」栽培。
 - ・ 中山間地域等直接支払や多面的機能支払広域組織事務局 等



地域活性化の拠点施設 六次産業化と農泊

(農)有限会社ひよこカンパニー

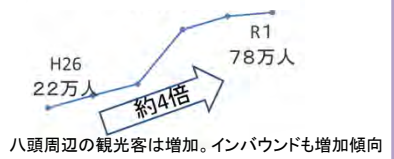
- ・ 鶏の自然な姿・放し飼いで飼育するため「大江ノ郷自然牧場」創設
- ・ 直売所兼牧場スイーツ専門店、食と農を楽しむ複合型施設等を運営



八頭町産八つの素材からなる「YAZUバーガー」

OOE VALLEY STAY(オオエバレーステイ)

- ・ 有限会社ひよこカンパニーが運営
 - ・ 廃校を活用した宿泊施設で地元で採れたお米や野菜を活用。タケノコ堀りや田植え、稲刈り体験などの農作物に触れる活動が体験できる。
- 鳥取県観光客入込動態調査 (八頭町周辺)



鳥獣対策・ジビエ活用

わかさ29工房(若桜町、八頭町)

- ・ 両町で捕獲された鳥獣の解体処理施設
- ・ 高い解体処理率 (処理頭数/捕獲頭数)
- ・ ジビエは八頭町ふるさと納税返礼品の他、首都圏飲食店等で高い評価

鳥取県は鹿利用量本州一

